



ファイナルレポート

第 18 回 国際電子部品製造機器専門見本市

2009 年 11 月 10 日～13 日

ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場

2009 年 11 月 16 日

Summary

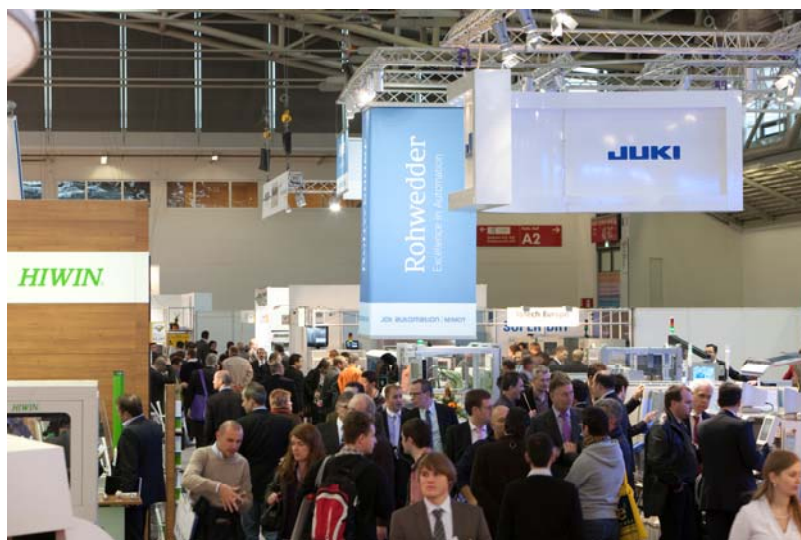
- 来場者の 91%が意思決定権を持ち、19%経営層 - 多くの新規ビジネスリードを獲得
- 中小企業が新規投資予算を確保 - 多くの商談が成立
- 新しいイベント「Munich Electronics Summit」も大盛況のうちに終了 - 業界をリードする企業の経営陣が講演



Facts & Data

会 期	2009 年 11 月 10 日(火)～13 日(金) 午前 9 時～午後 6 時(最終日のみ午後 5 時まで)
会 場	ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場
主 催	ミュンヘン見本市会社 (Messe München GmbH)
規 模	全 7 ホール 約 75,000 m ²
出 展 企 業	1,150 社 (2007 年:35ヶ国から 1,484 社)
来 場 者 総 数	28,000 人以上 - 42%はドイツ国外から (2007 年:87ヶ国から 40,514 人)
専 門 分 野	コンピューター技術、製造オートメーション、測定・調整、制御技術、エレクトロニクス、電子工学
主 な 出 展 品	半導体・ディスプレイ・太陽電池製造、材料加工、生産管理・物流技術、コイル製品、ケーブル加工技術、プリント基板・回路基材製造技術、部品実装技術、はんだ付け技術、製品最終加工、検査・測定技術、品質保証、各種オペレーティング機器、製造サブシステム、原材料、サービス、受託製造サービス(EMS)、マイクロ・ナノ製造技術
出展日系企業 (現地法人・代理店 出展含む)	アイパルス(株)、伊藤忠商事(株)、岩手県、カートン光学(株)、(株)弘輝、(株)サキコーポレーション、(株)GSI クレオス、(株)シーティーケイ、ジェトロ仙台、JUKI(株)、ショーダテクトロン(株)、住友スリーエム(株)、西華産業(株)、セイコーインスツル(株)、千住金属工業(株)、ソニーマニュファクチャリングシステムズ(株)、太陽インキ製造(株)、タカノ(株)、タカヤ(株)、(株)タムラ製作所、TDK ラムダ(株)、(株)ディスコ、デンオン機器(株)、(株)電波新聞社、(株)トーヨーコーポレーション、(株)ニコン、日本アルミット(株)、(株)日本スペリア社、(株)ハイロックス、伯東(株)、白光(株)、パナソニックファクトリーソリューションズ(株)、富士機械製造(株)、富士フイルム(株)、浜松ホトニクス(株)、マイクロクラフト(株)、マルチ計測器(株)、(株)ミットヨ、宮城県、ヤマウチ(株)、ユニオンツール(株)、レイデント工業(株) ほか(50音順)
専 用 U R L	www.productronica.com (英語 / ドイツ語)

最新のエレクトロニクス製造技術が一堂に会する業界屈指のリーディングメッセ productronica が 2009 年 11 月 10 日から 13 日まで、ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場で開催された。経済状態の厳しさにも関わらず 1,115 社が出展、その 39% はドイツ国外からの出展社で、出展社数は前回に比べて減少したものの、国際性の高さは維持することができた。来場者数も経済危機と出張規制の影響を受けて、前回の 40,514 人に比べて 30% 減少し 28,000 人となったが、来場者の 91% (2007 年は 88%) が意思決定権を持ち、19% (2007 年は 15%) が経営層という、質の高い来場層となった。



ミュンヘン見本市会社の常務取締役クラウス・デイトリツヒは、「productronica は経済状況に大きな影響を受ける結果となったが、業界発展のためのプラットフォームとして、景気の指標として、業界全体が再び見通しのより明るい未来を保証する役割を担っていると確信している。多くの出展社がすでに次回 2011 年の参加を予定していることから、productronica が出展社、来場者両者にとって、不可欠なプラットフォームであることを改めて認識した」と話している。

Viscom AG 社 General Sales Manager の Gerd Rademann 氏は、「当社は productronica を次年度の市場動向を示す指標として見ている」と話すように、多くの出展社が、2010 年の市場発展動向の感触を得る、業界のバロメーターとして productronica を利用した。出展社の多くが、経済状況や出張規制により来場者数が減ることを予測していた。DEK Printing Machines GmbH 社 General Manager Western & Central Europe の Stefan Techau 氏は、「今年は来場者が減少し、また滞在日数が短くなることを予測していたが、productronica が業界を代表する見本市であり、翌年の市場動向を見定める場所であることから、参加は決めていた。結果は、2007 年よりも専門性の高い来場者が多かった。2007 年は既存顧客へのサポートが主だったが、2009 年は多くの新規顧客を開拓することができた」と驚きを隠せない。その他にも多くの出展社から来場者の質の高さに対する高い評価が得られた。Agilent Technologies Sales & Services GmbH & Co. KG 社 Sales Director の Hans-Jürgen Bochtler 氏は、「来場者数は前回より減少したが、ブースでの滞在時間が長く、結果として、明確な購入プロジェクトについて徹底的に話し合うことができ、質の高いビジネスリードを得ることができた」と話している。

見本市期間中に、多くの出展社がビジネスを成立させたという、予想していなかった結果も報告されている。Ersa GmbH 社 Director of Sales, Marketing & Product Management の Bernd Schenker 氏は、「ここ 3、4 週間市場が安定し、少しずつ上向いてきていることを実感していたが、それが続くのかどうかということ予測することは不可能だ。よって、会期中は様々な国からの来場者とその場での取引を成立させた」と話している。特に中小企業が新規投資予算を確保しており、意思決定も迅速に行われたという声が多く聞かれた。

productronica の主要分野であるプリント基板・回路基材製造技術、ケーブル加工技術、部品実装技術、はんだ付け技術、検査・測定技術に加え、受託製造サービス(EMS)、マイクロ・ナノ製造技術、太陽電池製造、ハイブリッド部品製造といった、急成長中の注目分野の最新技術を紹介するフォーカスエリアを設け、来場者から多くの注目を集めた。

また、今回新しいイベント「Munich Electronics Summit」を開催した。イベントで最も注目を集めた CEO Round Table では、6 人の業界をリードする企業の経営者が「イノベーション: 昨今の危機で生き残るための原動力」というテーマで意見交換を行い、およそ 150 人が参加した。その後、40 人の国際企業の CEO が個室に集まり、今後の戦略や動向について話し合った。この「Munich Electronics Summit」は今後毎年、electronica と productronica の会場で開催される。



productronica University という名の下、見本市会場でエレクトロニクス製造にかかわるすべての「スタンダード」についての講義が行われた。productronica フォーラムやイノベーション・フォーラムのセッションでは、マイクロ・ナノ製造、太陽電池製造、トレーサビリティ、有機エレクトロニクスなどのエレクトロニクス製造における市場や技術に関連した様々な議題が取り上げられた。

特に有機エレクトロニクスについての議題は来場者から注目を集めた。Organic Electronics Association、Managing Director の Klaus Hecker 氏は、「当協会が主催したセッション『有機エレクトロニクスにより、すべての場所にエレクトロニクスを』には 110 人という予想をはるかに上回る多くの人が参加いただき、多くの新しい意見を集めることができた」と話している。

見本市だけでなく、様々なプログラムを併催している productronica は、国内および国際的なエレクトロニクス製造業界にとって最適なビジネス・プラットフォームと言える。

次回、productronica は 2011 年 11 月 10 日～13 日に開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.productronica.com まで。

資料請求、出展申込み、入場券購入、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン・インターナショナル 日本代表部

〒102-0075 東京都千代田区三番町 2-4 三番町 KSビル 5F 在日ドイツ商工会議所内

Tel.: 03-5276-3508 Fax: 03-5276-3509 e-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.com (英語 / ドイツ語)